私たちの居場所 EARTH

in Kishiwada

風たちの学校

2026 1.17 SAT

上映時間
①10:30~ 居場所交流会
②13:00~ 映画上映会
③15:00~ 監督トークショー

会　場 南海浪切ホール　小ホール

入場料金 800円 ※高校生以下　無料

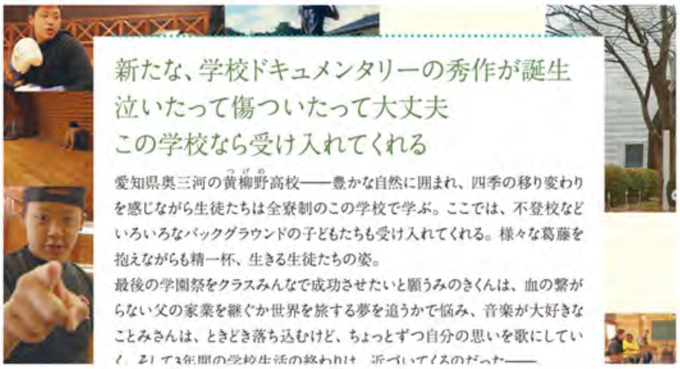
感じて、語って繋がる上映会

1日だけの特別映画館が岸和田市にやってきます。

風たちの学校

**不登校を経験した監督が学んだ学校を、
四季の移り変わりを通じて
自らカメラに収めていく**

監督は、大阪芸術大学でドキュメンタリー作家、原一男に学んだ田中健太。苦しみながらも懸命に生きている子どもたちが集う、大阪・富田林市の駄菓子屋を描いた卒業制作『ぼくと駄菓子のいえ』が、座・高円寺ドキュメンタリーフェスティバル、なら国際映画祭などで上映され、高く評価された。その待望の新作は、自らも不登校を経験し、黄柳野高校で学んだ記憶を胸に、時には悩み。傷つきながら成長していく子どもたちを、四季を感じながらそばに寄り添い、生き生きと捉えていく。



新たな、学校ドキュメンタリーの秀作が誕生
泣いたって傷ついたって大丈夫
この学校なら受け入れてくれる

愛知県奥三河の黄柳野（つげの）高校――豊かな自然に囲まれ、四季の移り変わりを感じながら生徒たちは全寮制のこの学校で学ぶ。ここでは、不登校などいろいろなバックグラウンドの子どもたちも受け入れてくれる。様々な葛藤を抱えながらも精一杯、生きる生徒たちの姿。
最後の学園祭をクラスみんなで成功させたいと願うみのきくんは、血の繋がらない父の家業を継ぐか世界を旅する夢を追うかで悩み、音楽が大好きなことみさんは、ときどき落ち込むけど、ちょっとずつ自分の思いを歌にしていく。そして3年間の学校生活の終わりは、近づいてくるのだった――

後援
高石市（予定）／高石市教育委員会
[illegible]
泉大津市教育委員会
岸和田市教育委員会
忠岡町教育委員会
貝塚市教育委員会
泉佐野市教育委員会
泉南市教育委員会
阪南市教育委員会
岬町教育委員会
和泉市教育委員会（予定）
熊取町教育委員会（予定）
田尻町教育委員会（予定）

お申し込み専用QRコード

私たちの〝居場所〟EARTH　いずみさき・ひつじのいえ・tetoteya・おかん家
事務局　NPO法人おかん家　〒596-0822 大阪府岸和田市額原町688
TEL.070-8334-1211

※上映に関しまして、〝岸和田市市民活動 初動支援事業補助金〟を一部活用させていただいております。

監督のことば

僕は中学時代不登校でした。そして黄柳野高校は母校でもあります。卒業後に僕は映画の道に進み、自分が学んだ学校のこと、そして不登校とは何か、をあらためて考えたいと、この学校を撮影し始めました。
だけれども、そんな僕の独りよがりな思惑を、するりとかわして、彼らはカメラの前で、羨ましいほどにかけがえのない青春を歩んでいきました。
時に悩み臆病になったとしても、勇気を出して一歩ずつ踏み出し、大切な誰かのことを想い合っていったのです。
僕はただただ彼らから、勇気をもらっていただけなのだと思います。
そんなこの映画が、多くのみなさんのもとに届くことを願っています。　監督 田中健太

プログラム紹介

① 10:30～　居場所交流会

映画を観る前に、地域の居場所づくりや子どもたちを支える活動について語り合います。
「こんな場があったらいいな」「今できることは？」など、思いを分かち合う時間です。
どなたでもご参加いただけます。

② 13:00～　映画『風たちの学校』上映会

不登校や多様な学びをテーマにしたドキュメンタリー映画。
自然の中で学び合う子どもたちと大人たちの姿が、静かに、そして力強く心に響きます。
感じて、語って、心が少し軽くなるような作品です。

③ 15:00～　監督トークショー

映画『風たちの学校』の監督が登壇。
撮影時のエピソードや作品に込めた思い、子どもたちへのまなざしについて語っていただきます。
質問タイムもありますので、ぜひ気軽にご参加ください。

感じて、語って、つながる一日。
それぞれの想いが交わり、新しい風が生まれる時間になりますように。

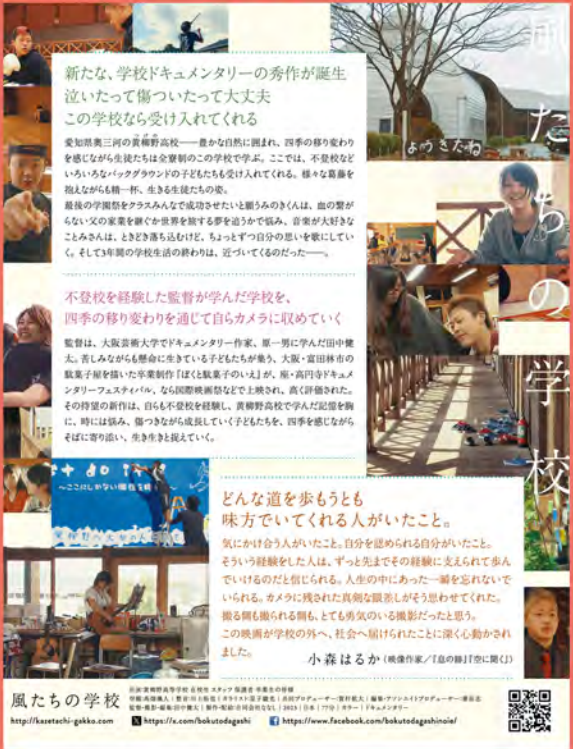
私たちの"居場所"Earth

いずみさき
ひつじのいえ
tetoteya zero waste shop
NPO法人おかん家

※3/21（土）岸和田市立中央公民館にて
第2回自主上映会を予定しています。
上映映画に関しましてはSNSにて配信予定です。
宜しくお願い申し上げます!

@IZUMISAKI3　@HITUJI2017　@TETOTEYA_ZW　@OKAN_CHI2024.SCHOOL

風たちの
学　校
大好きだけど、
ちょっとややこしい
そして2度と戻らない時間
春が来たら
卒業だけど、
絶対忘れない



新たな、学校ドキュメンタリーの秀作が誕生
泣いたって傷ついたって大丈夫
この学校なら受け入れてくれる

愛知県奥三河の黄柳野高校――豊かな自然に囲まれ、四季の移り変わりを感じながら生徒たちは全寮制のこの学校で学ぶ。ここでは、不登校などいろいろなバックグラウンドの子どもたちも受け入れてくれる。様々な葛藤を抱えながらも精一杯、生きる生徒たちの姿。
最後の学園祭をクラスみんなで成功させたいと願うみのきくんは、血の繋がらない父の家業を継ぐか世界を旅する夢を追うかで悩み、音楽が大好きなことみさんは、ときどき落ち込むけど、ちょっとずつ自分の思いを歌にしていく。そして3年間の学校生活の終わりは、近づいてくるのだった――。

不登校を経験した監督が学んだ学校を、
四季の移り変わりを通じて自らカメラに収めていく

監督は、大阪芸術大学でドキュメンタリー作家、原一男に学んだ田中健太。苦しみながらも懸命に生きている子どもたちが集う、大阪・富田林市の駄菓子屋を描いた卒業制作『ぼくと駄菓子のいえ』が、座・高円寺ドキュメンタリーフェスティバル、なら国際映画祭などで上映され、高く評価された。その待望の新作は、自らも不登校を経験し、黄柳野高校で学んだ記憶を胸に、時には悩み、傷つきながら成長していく子どもたちを、四季を感じながらそばに寄り添い、生き生きと捉えていく。

どんな道を歩もうとも
味方でいてくれる人がいたこと。

気にかけ合う人がいたこと。自分を認められる自分がいたこと。そういう経験をした人は、ずっと先までその経験に支えられて歩んでいけるのだと信じられる。人生の中にあった一瞬を忘れないでいられる。カメラに残された真剣な眼差しがそう思わせてくれた。撮る側も撮られる側も、とても勇気のいる撮影だったと思う。この映画が学校の外へ、社会へ届けられたことに深く心動かされました。
小森はるか（映像作家／『息の跡』『空に聞く』）

風たちの学校
http://kazetachi-gakko.com　https://x.com/bokutodagashi　https://www.facebook.com/bokutodagashinoie/

当日ご参加の各居場所団体様のチラシもお持ち帰りいただけます。